

2018 年 10 月における北部太平洋のマイワシ漁獲状況

1.マイワシ漁獲状況概要

(1)道東海域

2018 年 10 月の道東沖における主要 5 港のマイワシ水揚量(大中型まき網、小型棒受網、たもすくい網)は 44,748 トンであり、前年同期(41,090 トン)並であった。浜中、広尾、花咲が前年を上回り、他の港では前年並～下回る水揚量であった(表 1)。10 月 31 日の表面水温分布図を見ると、厚岸沖に 14～15℃の水帯が広がっており、漁場になっていた。10 月 31 日をもって、大中型まき網、小型棒受網漁は終漁したが、たもすくい漁は 11 月も継続中である。

表 1 道東海域におけるマイワシの水揚量

水揚港	2018年10月 (トン)	2017年10月 (トン)	前年比
花咲	52	33	1.6
浜中	300	116	2.6
厚岸	45	809	0.1
釧路	27,654	27,472	1.0
広尾	16,697	12,660	1.3
合計	44,748	41,090	1.1

(出典：おさかなひろば)

(2)三陸常磐海域

八戸から石巻における主要 8 港のマイワシの 10 月の水揚量は 23,482 トンで前年同期(21,356 トン)並であった(表 2:八戸港、石巻港水揚量には道東沖操業船からの搬入物を含む)。三陸海域の水揚量のうち、道東沖操業分を除いた水揚量は 2,304 トンであった。小名浜から銚子における主要 4 港のマイワシの水揚量は 2,365 トンで前年同期(1,906 トン)の 1.2 倍であった(表 3)

表 2 三陸海域におけるマイワシの水揚量

水揚港	2018年10月 (トン)	2017年10月 (トン)	前年比
八戸	15,125	13,286	1.1
久慈	1,515	121	12.5
宮古	15	15	1.0
釜石	1	163	0.0
大船渡	319	343	0.9
気仙沼	848	2,487	0.3
女川	586	391	1.5
石巻	5,073	4,550	1.1
合計	23,482	21,356	1.1

(出典：おさかなひろば)

表 3 常磐海域におけるマイワシの水揚量

水揚港	2018年10月 (トン)	2017年10月 (トン)	前年比
小名浜	—	—	—
大津(茨城)	—	—	—
波崎	—	—	—
銚子	2,365	1,906	1.2
合計	2,365	1,906	1.2

(出典：おさかなひろば)

2.マイワシの体長組成

(1)道東海域

道東沖で今年 10 月にまき網によって漁獲されたマイワシの体長組成は 18～20cm(2 歳魚)が主体であり、15～16cm(1 歳魚)も漁獲された。前年同期でも 18～20cm(2 歳魚)が主体であり、20cm(3 歳魚)も漁獲された(図 1)。

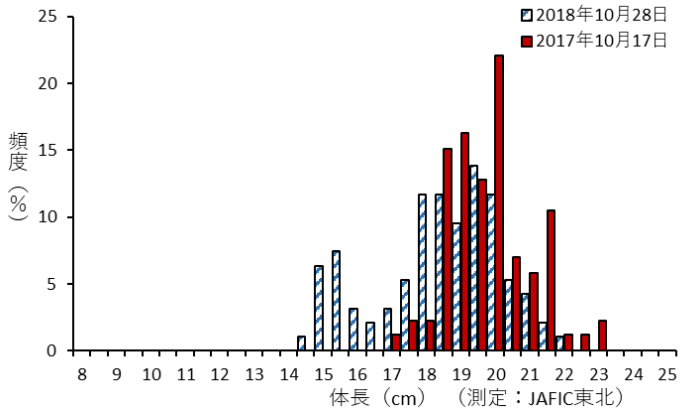


図 1 2018 年 10 月と前年同期のまき網(漁場:釧路沖)によるマイワシ体長組成

(2)三陸常磐海域

石巻沖で今年 10 月に定置網によって水揚げされたマイワシの体長組成は 10～12cm(0 歳魚)が主体であった。前年同期では 12～14cm(0 歳魚)が主体であり、今年の方が魚体は小さかった(図 2)。

常磐海域で今年 10 月にまき網で漁獲されたマイワシの体長組成は 11～13cm(0 歳魚)が主体であったが、前年に漁獲されたマイワシは 18～20cm(2 歳魚)主体であった(図 3)。

10 月 31 日の表面水温分布図によると、三陸常磐沖は前年よりも 2～3℃高い。金華山沖に暖水塊が分布し、宮古沖まで 21～22℃の暖水が分布している。この暖水塊によって道東の 2～3 歳魚の南下が前年よりも遅く、常磐海域のまき網の水揚げ物の組成に影響を与えていると考えられる。

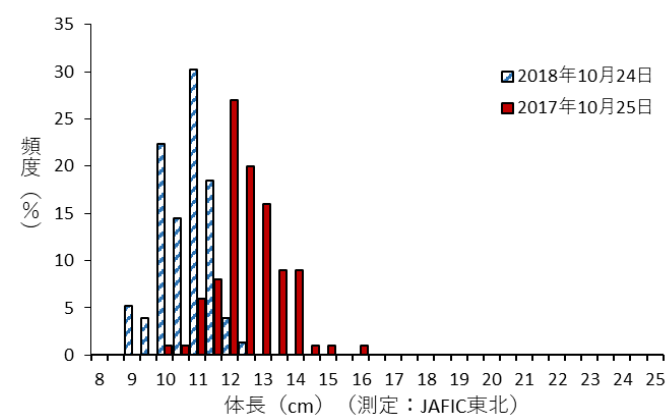


図2 2018年10月と前年同期における
石巻沖定置網のマイワシ体長組成

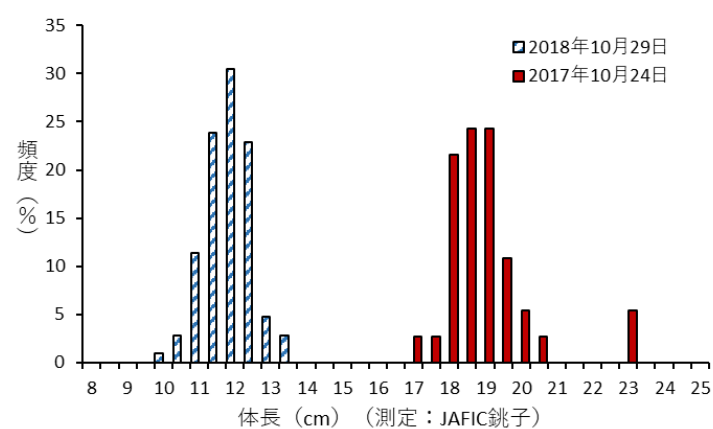


図3 2018年10月と前年同期における
常磐沖まき網のマイワシ体長組成

(漁海況部)